

▼関東

3年ぶりの新潟支部 節分祭

松本 仁(UX)

コロナ禍で休止していた、毎年恒例の新潟支部の「節分祭」が、3年ぶりに開かれました。

鬼が田植えを手伝ってくれた年が豊作だったという佐渡の民話にちなみ、支部の掛け声は「福は内、鬼も内」。福を呼び込む豆まきです。会場では異口同音に「声を出すことが健康につながる」との話が盛り上がり、全員で「あえいうえおおお」を大合唱。クラブ員の健康を祈念しました。



ホテル イタリア軒(新潟市)

紅葉ウォッチング
江成 博行(SBS)
師走に入った12月1日、恒例「紅葉ウォッチング」に参加したのは元気な21人。今回の目的地は山梨県。全線開通した中部横断道で、ミレーの作品を常設している山梨県立美術館へ。
バスの車窓を眺めながら、元静岡県立美術館のボランティアをしていた久保田会員より、ミレー



ーの作品についてのミニレクチャーを受け、想像力を膨らませて現地に到着。
内部には富士山が見える窓が、あたかも絵画の額縁のようにレイアウトされていましたが、残念ながらこの日の富士山は雲の中でした。
山梨といえば葡萄とワイン。筆者はそれを求めて退職後、よく葡萄園やワイナリーを毎年のように訪ねていましたが、コロナ禍で今回2年ぶり。昼食の前に立ち寄った「シャトー酒折ワイナリー」では、全国旅行支援で配布された1日限りのクーポン券(3千円)を使ってお土産のワインを購入、試飲もちよつぷり。
次にバスが向かったのは甲府の東、春日居温泉の民芸風旅館。ここで囲炉裏焼き料理の昼食。海のない山梨県で味わうサザエの壺焼きから始まり、焼き肉、ほうとう鍋などボリュームたっぷり。ゆつくりと歓談しながらお腹も満たされて久々の宴会気分。食事で満たされると、その日は満足度が高得点。まさに食欲の秋。



民芸風旅館の前で記念撮影

山梨のもう一つの名産、信玄餅。桔梗屋(ききょうや)本社工場にて製造過程の見学ツアーで階段の上り下りに一苦勞。ここでも新商品のお土産をゲット。
紅葉ウォッチングは、と言うと時期も時期なので、帰路に河口湖畔の紅葉トンネルで終わりかけた木々の彩りを味わい、季節の変わり目を感じながら朝霧高原を抜けて静岡に戻りました。バス内でハーモニカを披露してくれたのは森会員。童謡、唱歌から始まり、昭和メロディーや国歌の演奏でクイズをしたり、そのレパートリーの広さに驚嘆。音楽の秋まで楽しめる中味の濃い1日でした。